

子どもにつながる保護者支援（理解編）

子どもにつながる保護者支援とは

不登校や不登校傾向にある子どもへの支援は、保護者と学校とが連携を取りながら支援していくことが大切であると考えられています。連携を取るためには、保護者と学校とが良好な関係を築いていることが重要です。

保護者は子どもが不登校や不登校傾向になると、どうしてよいか悩み、困り、またその不安を一人では抱えきれなくなってしまうことがあります。しかし、周囲に理解者や支援者がいると、その不安は軽減されます。

学校はどうすれば不安を抱える保護者を支援することができるでしょうか。

本リーフレットでは、不登校生徒への理解と支援のキーパーソンとなる保護者との連携の在り方について考えます。学校が保護者との良好な関係を築くために、不登校や不登校傾向にある子どもを持つ保護者の気持ちを知ること、また、知ることにより保護者に寄り添いながら連携を取ることで、子ども支援につなげていく方法を考えます。



【もくじ】

- (1) 子ども支援は保護者と学校との連携が大切
- (2) 保護者の気持ちを理解していく
 - ① 保護者の気持ちを知らうとする
 - ② 保護者の気持ちを聴く
 - ③ 保護者の気持ちを理解する
- (3) 保護者と連携が取れるケースにしていくために

※本リーフレットは高校生を対象としていますが、小学生、中学生の場合でも参考になるように作成しています

※本リーフレットは理解編と事例編があります

※不登校生徒への支援については、下記のリーフレットもあります

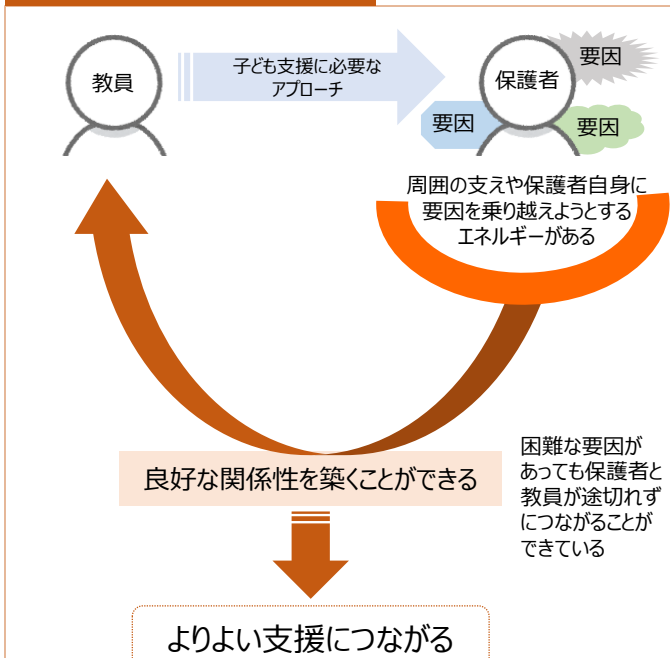
「不登校生徒支援リーフレット（理解編）（予防編）（支援編）」

（大阪府教育センター 平成29年3月31日発行）

(1) 子ども支援は保護者と学校との連携が大切

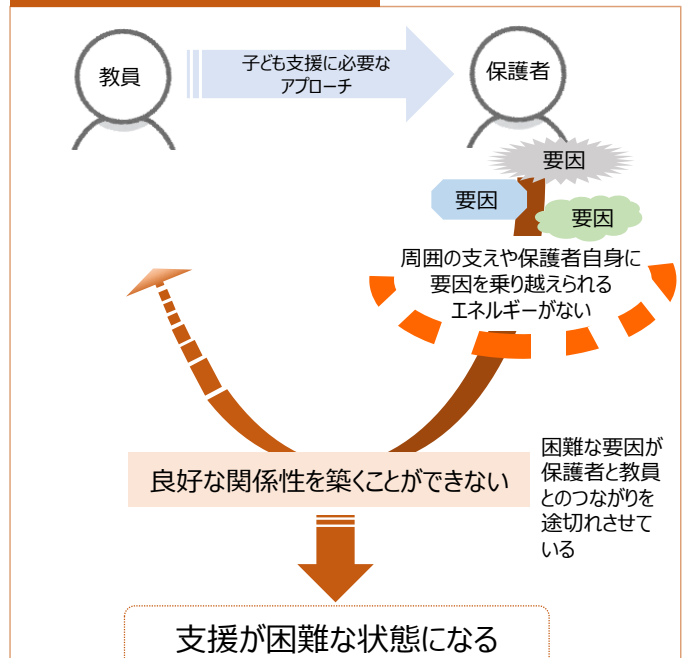
学校に行きづらい子どもがいれば、教員は保護者に協力を求めます。しかし、家庭の状況によっては連携の取りやすい場合と取りにくい場合があります。

連携が取りやすいケース



家庭内に困難な要因があっても、保護者と教員との間に良好な関係があれば、教員からのアプローチに保護者は協力的で連携が取りやすくなります。

連携が取りにくいケース



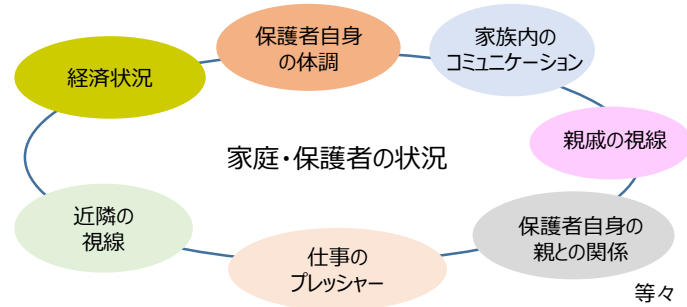
家庭内に困難な要因があり、その要因のために保護者と教員とがつながりにくくなっている場合、教員からのアプローチは一方向的になりがちです。

（2）保護者の気持ちを理解していく

保護者と学校とが良好な関係を築くためには、保護者の背景にある要因や気持ちを理解することが大切です。

◇背景にある要因に気付く

保護者には、子どもとの関係だけでなく、保護者自身をとりまく様々な背景があります。それらが要因となり、保護者の気持ちや周囲との関係の取り方に影響を与えることがあります。



保護者の背景にある要因や気持ちを理解していくためには、何よりもまず保護者の話を聴いてください。

「聴く」ことによって、保護者の気持ちを「知る」ことができます。それは、保護者を「理解する」第一歩につながります。



①保護者の気持ちを知らうとする



教員

（例）あまり叱らず
見守ってくださいね

アプローチ

保護者

気持ち

良かれと思ひ伝えた言葉は同じでも、保護者の抱える状況によって捉え方が違う

保護者Aさんの捉え方

そうか
見守ったらいいんだ

安心

先生の言葉で安心したり、
支えられたりすることもある

保護者Bさんの捉え方

私が叱ってばかりいるから
いけないってこと?!

不安・怒り・傷つき

先生の言葉で不安になったり、
傷ついたりすることもある

なぜAさんは安心し、Bさんは不安になったのだろうか？

背景を理解する

（例）

- ・パートナーや祖父母の協力がある（安心感）
- ・これまでも教員と良好な関係がある（信頼感）
- ・子どもとコミュニケーションが取れている（期待感）
- ・相談できる人がいる

等々

（例）

- ・子育てに自信が持てない（不安感）
- ・パートナーに責められてばかり（孤独感・自己肯定感の低下）
- ・ひとり親で必死に育ててきた（承認欲求）
- ・祖父母からのプレッシャー（焦燥感）
- ・教員、学校への不満がある

等々

このような背景は保護者の気持ちを「聴く」ことで見えてきます

②保護者の気持ちを聴く

◇ 「聴く」ための大切な姿勢

保護者と話をしているなかで、「聞く」こともあれば、「聴く」こともあります。特に相手のことを大切に思い、分かろうとして話を「聴く」ためには、大切な2つの姿勢があります。

『大辞林 第四版』より

「聞く」：音や声を耳に感じ認める

「聴く」：人の言うことを理解して受け入れる
傾聴するの意

受容

相手を否定したり、非難、批判、評価したりせずに、相手の言動や気持ちを一人の人として尊重すること。

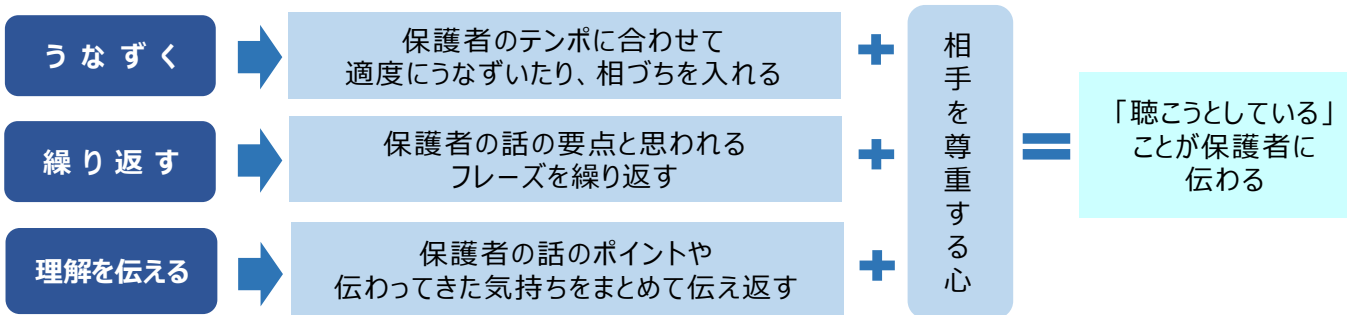
共感

相手を経験し感じていることを、自分のことのように感じ理解すること。

「受容」「共感」が基本となります

◇ 「聴こうとしている」ことが保護者に伝わる大切な表現方法

保護者の話を「聴こうとしている」ことが伝わることで、保護者との信頼関係が深まったり、本音を話してくれたりすることにつながります。



保護者

(例) 子どもが起きないので毎朝叱ってしまう

教員

受容・共感の姿勢で聴く

どれだけ起こしても起きてこないんです…。

そうなんです。なかなか起きてくれないんですね…。

うなずく

父親は早朝に出勤してしまう私も仕事に行かないといけなし。

そうなんです。朝は時間がないから焦りますよね。

繰り返す

父親は私に任せていると言うし祖父母は私が甘やかしていると言うし…。

そう言われるとプレッシャーになりますね。

うなずく

そうなんです。もう、どうしていいかわからないんです。

お話しくださってありがとうございます。お一人で抱えず、一緒に考えていきましょう。

理解を伝える

理解を伝える

理解を伝える

保護者の気持ちを聴くことで保護者の困りごとに気付き支援の方法を考えていくことができます

③保護者の気持ちを理解する

同じ話をしていても、保護者の抱える要因によって内容の捉え方が違ってきます。また、話をしている間にも話の方向性が変わってくる場合があります。

言葉の捉え方も教員と保護者との信頼関係によって変わることがあります。普段から信頼関係を築いていくことが大切です。

◇「理解する」ための大切な姿勢

先入観をもたない

価値観を押し付けない

答えを先に言わない

見えているところだけに捉われない

保護者の気持ちを「知る」まで **聴く** こと



「聴く（受容、共感する）」ことは「同意する」ことではありません。
 「保護者からの要求」ではなく保護者からの「願い」を理解するために聴くことが大切です。
 「聴く」ためのおおよその時間を決めておくことも大切です。
 ※時間やメリハリを大切にしてください。長時間聴くことが丁寧に聴くことではありません。



保護者は子育てをしながら『保護者』になっていきます。
 その過程は子どもの成長過程と同じく様々です。
 なぜなら保護者を取りまく背景は様々だからです。

（3）保護者と連携が取れるケースにしていくために

◇子どもにつながる保護者支援とは

保護者を支援していくことで、子どもたちにとってより良い支援につながるようにしていくことが大切です。常に子どもを中心に考えて保護者と関わってください。

保護者の気持ちを知らうとする

保護者の気持ちを聴こうとする

保護者の気持ちを理解しようとする

保護者と連携を取るためには
 まず保護者の気持ちを
 「知らうとする」ことが必要です

「知らうとする」ためには保護者の気持ちを
 「聴こうとする」ことが大切になります

「聴こうとする」ことは保護者を
 「理解しようとする」ことにつながり
 保護者との**連携**の一助となります

不登校生徒への支援は保護者と学校とが
 連携して行うことが大切です



子どもにつながる支援

